

レーザーセミナー

「レーザーの基本と応用」

1. キーノートレクチャー

美容皮膚科領域におけるレーザー治療の現状と将来の展望

2. スポンサーレクチャー（ニーク）

1. シミの治療におけるQスイッチルビーレーザーの有用性

2. 美容皮膚医療における炭酸ガスレーザーの有用性

座長

川名誠司（日本医大）

須賀 康（順天堂大浦安）

1. キーノートレクチャー

美容皮膚科領域におけるレーザー治療の現状と将来の展望

衣笠 哲雄

医療法人 創美会 きぬがさクリニック

美容医療を取り巻く環境は、ここ10年の間に、激変を遂げたといえよう。ひとつは、医療サイドおよび患者サイドの認識の変容であり、またひとつは、新しい医療機器の登場によるものが大きいといえる。ひと昔もふた昔ももっと前、昭和30年代から30～40年間は、美容医療の担い手は美容外科医であった。（「美容整形」と呼ばれ、何やらダーティで、日陰者のイメージを強くもたれていた）。しかしながら、形成外科医が美容医療に参画するようになり、東大が『美容外科』を標榜するに至って、怒濤の如くに「形成外科+美容外科」が大学病院のみならず、国公立病院や総合病院にまで広がった。そして、内科医、婦人科医も、ホルモン補充療法、点滴療法などをはじめとし、アンチエイジング医療に積極的に取り組んでいる。はたまた、皮膚科医も疾病中心の皮膚科医療のみならず、ケミカルピーリングやイオン導入などの美容分野（リジュビネーション）への参画が増え、正式標榜科ではないものの『美容皮膚科』を標榜する医療機関も激増している。患者サイドといえば、健康保険のきく医療ではあきたらず、効果効能があるならば自費診療もかまわないという風潮になってきている。また、美容医療が芸能人や水商売の人たちのためだけの限られた人たちに対する特殊な医療ではなく、誰もがうけられる垣根の低いものとなって一般の人々に広く受け入れられてきている。そして、何よりも大きな変化として、レーザー・光治療器を中心とする医療機器の進歩、肌診断を容易にした検査機器や、各種注入材料、機能性化粧品などの開発も美容医療の一般化大衆化を加速したといえる。今回、さまざまなレーザー、光治療器、美顔機器・診断機器、各種医療材料等の治療の実際について述べるとともに、美容皮膚科・美容医療への参入が増え、開業ラッシュを迎えたともいえる現代の「美容クリニック経営」についても言及したい。

2. スポンサードレクチャー（ニーク）

1. シミの治療におけるQスイッチルビーレーザーの有用性

葛西 健一郎

葛西形成外科

美容皮膚科の治療対象のなかで、最も需要が多く、そして確実な効果が出しやすいものは「シミの治療」である。

いわゆるシミは、①肝斑、②老人斑、③雀卵斑、④ADM（後天性真皮メラノサイトーシス）、⑤PIH（炎症後色素沈着）に分類され、各患者の臨床症状はこれらの組み合わせとしてあらわれる。それぞれの病変を確実に診断して最善の治療を施せば、すべて除去可能である。

①肝斑は、不適切なスキンケアによる皮膚への過刺激とそれによる炎症症状が原因なので、スキンケア指導とトラネキサム酸内服を組み合わせた「保存的治療」が有効である。レーザーは禁忌とされる。②老人斑は、主に紫外線障害による表皮の良性腫瘍性変化なので、炭酸ガスレーザー（CO₂）またはQスイッチルビーレーザー（QR）治療により完全除去することが望ましい。フラッシュライト（IPL）治療は病変の部分除去になるので再発が早い。③雀卵斑は、体質性の色素失調状態と考えられ、根治的治療法は存在しないので、QRまたはIPLで症状改善を図ることになる。④ADMは真皮メラノサイトーシスなので、Qスイッチレーザー以外のいかなる方法でも除去することはできない。QRで治療すれば、ほとんどの症例は1～2回の照射で完全除去が可能である。⑤PIHは炎症後の正常の生体反応と考えられ、ほとんどの症例は何もしなくても自然消退する。逆に何か治療を加えることによって炎症の消退が遷延すると、かえって消退の時期が遅れてしまうので、結局何もしないでそっとしておくことが最善である。

こうして考えてみると、「シミの治療」の中で最も有用な治療機器はQRであることがわかる。目に見える治療効果の出ない illusion な施術の多い美容皮膚科治療の中であって、QRを活用した「シミの治療」は、目に見える治療効果が確実に得られる real な治療として非常に有力である。

2. スポンサードレクチャー（ニーク）

2. 美容皮膚医療における炭酸ガスレーザーの有用性

吉村浩太郎

東京大学医学部形成外科

美容皮膚治療ではさまざまなレーザーが使用されるが、有効性、確実性において優れており、1回の治療で確実な効果が期待できるのは、メラニンを標的とする各種Qスイッチレーザーと水を標的とする炭酸ガスレーザーであり、実際にわれわれの施設で使用頻度が最も高いのはこの2種類のレーザーである。

炭酸ガスレーザーは、ホクロ（母斑細胞性母斑、単純黒子）、イボ（尋常性疣贅、脂漏性角化症、扁平疣贅）、黄色腫、汗管腫、稗粒腫などをはじめとしたあらゆる種類の皮膚の小腫瘍の切除に有効であるだけでなく、ニキビや感染性囊疱の排膿、皮膚のリサーフェシングやアブレーションなど、幅広い目的に使用することができる。

炭酸ガスレーザーの特徴として、レーザーの効果が実際にその場で目に見えること、そのため同じ場所の複数回の治療が必要ないこと、メスやグラインダーなどの代わりに機械的な切開や削皮に使用できること、熱が発生し出血しないこと、そのため最小限の物品で手軽に施行可能なこと、特殊なゴーグルを必要としないこと、などがあげられる。こうした特徴を最大限に利用することにより美容皮膚医療の現場では広範囲の応用が可能であり、今後もその適応は工夫次第で大きく広がることが予想される。

本口演では、こうした炭酸ガスレーザーの治療の実際について、利用方法や治療における注意点などを要約して紹介したい。